

ケアハウスつべつ

創設10周年記念式典が行われる

12月1日、ケアハウスつべつ（土田一晴理事長）が平成13年の開設から10年目を迎えたこと記念し、入居者、関係者を含む約60人が出席して記念式典が行われました。

式典の始めに土田理事長より、「地域の皆様や多くのボランティアの協力により10周年を迎えることが出来ました。変わらぬご支援ご協力をお願い致します」と挨拶。

その後、佐藤多一町長、篠原眞稚子副議長、長崎の祝辞と入居者へ記念品の贈呈が行われました。また、祝宴の余興として美幌三弦会「東梅孝泉社中」の三味線、音夢の会「津別奈々サークル」の大正琴の演奏があり、式典の最後には、万歳三唱でケアハウスつべつの更なる発展を願いました。



中心街に冬の風物詩を

さんさん館前にイルミネーション点灯

12月2日午後5時30分から、さんさん館前庭で街中イルミネーション推進委員会主催によるイルミネーション点灯式が行われました。佐藤多一町長と子ども達の手で電飾に光が灯され、約3000個のLED電球が幻想的な世界を作り出しています。

また、午後7時から、さんさん館を会場に、まちづくりセンター運営協議会主催のセレモニーパーティーが開かれ、120人の参加者がチミケップホテルによる津別産の食材を使った料理を堪能しながら、ザ・プレッシャーズのバンド演奏を楽しみました。パーティーの最後には地元飲食店提供の景品抽選会が行われ、帰途に就く参加者の顔からは笑みがあふれていました。



12月9日、津別町有機農業推進協議会

（山田昭夫会長）が教育委員会を訪れ、学校給食用にサツマイモ20kgを寄贈しました。

山田会長は、寄贈への想いを「子ども達は味に敏感なので、野菜の本当の味を知って育ってもらいたい。今後も地元産の食材の提供を続けていきたい」と話しました。

また、寄贈されたサツマイモは、石川剛さんが無農薬、無化学肥料にこだわって栽培、収穫したもので、食材本来の味や食感を活かすことができます。12月21日の学校給食で「サツマイモシチュー」に調理され、子ども達の口へ運ばれました。

津別町有機農業推進協議会 学校給食用にサツマイモを寄贈

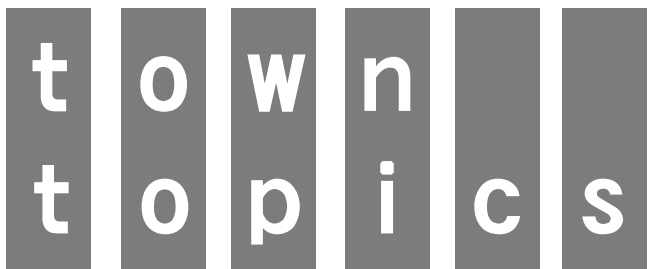


多くの本好きが訪れる 第16回図書室まつり開催

12月4日、中央公民館で第16回図書室まつりが開催され、会場には300人を超える人たちが訪れました。

講堂で行われた「古本市」では、文庫本、新書本、児童書、実用書、雑誌などの本が6000冊以上並べられ、価格も1冊10円〜100円と子どもでも購入できる金額で販売されました。中には、一人で数十冊を購入する人もいたなど、会場は読書家や家族連れで賑わいました。

また、別室では図書室クイズ、お料理教室、おはなし会などが行われたほか、2階研修室では、劇団「北風」による影絵劇、バルーンアートショーが行われ、大人も子どもも休日のひとときを楽しみました。



まちのわだい

念願の全道大会出場を決める 津別ミニバス少年団が準優勝



11月に美幌町で開催された北見ミニバスケットボール交歓大会で、津別ミニバスケットボール少年団が準優勝。12月2日、熱戦の報告と全道大会への出場報告のため、町長室を訪れました。

津別ミニバスケットボール少年団は、田中涼也君（現キャプテン）を始めとする17人の部員が日々厳しい練習を重ねています。全道大会の出場に向け田中君は「北見地区2位のプライドを持って大会に挑みたい」と抱負を述べ、佐藤町長は「全国を目指して頑張ってきて下さい」と部員一人ひとりと握手を交わし、激励しました。

11月25日、津別中学校体育館で、元コンサドーレ札幌の曾田雄志さんを講師に招いた講演会が行われました。

津別町連合PTA研修会兼津別町教育講演会として企画されたもので、曾田さんは自身の経験に基いた子育て論やスポーツの教育的効果などを、分かりやすい言葉で語りかけました。なかでも、「新しいことに挑戦しての失敗は、挑戦しないことより価値がある」という持論には多くの聴衆が頷いていました。



ミスターコンサドーレを招き
津別町連合PTA研修会開催

新年への思いを託して 園児たちが年賀状を投函



年賀状特別受付開始日の12月15日、青葉幼稚園の園児たちが津別郵便局を訪れて年賀状を投函しました。

先生たちに引率されて郵便局の窓口に行ってきた28人の園児は、それぞれ新年への思いをつづった年賀状を持参。対応した郵便局の人に「よろしくおねがいします」と元気にあいさつして、専用の受付箱に投函しました。

平成24年の干支である辰（たつ）のイラストやメッセージが書かれた年賀状は、受け取ったおじいちゃんやおばあちゃんが笑顔になるような楽しいものばかりでした。

津別町青少年海外研修派遣事業の一環としてニュージーランドに滞在していた、津別高校の迫田成美さん（2年生）、大竹駿二君（1年生）、古跡優君（1年生）が帰町。3人は11月25日に町長のもとを訪れ、感想や体験談などを報告しました。

生徒たちは「自然が豊かでもう一度行ってみたいと感じた」（迫田さん）、「英語が通じなくても優しく接してくれた」（大竹君）、「これからは英語の場合でも意思表示をはっきりしていきたい」（古跡君）などと感想を述べ、他国の文化に触れたことによる成長を感じさせました。



他国の文化や生活を体験
ニュージーランド研修報告